

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書

研究代表者 所属・職名 上越教育大学・教授

氏 名 迎 勝彦

研究期間 令和6年度～令和7年度

研究プロジェクトの名称	大学の地域連携事業を活用したハイブリッド研修システムの構築
研究プロジェクトの概要	<p>本学の「自主セミナー」は、講義内容や講師が適切に整えられており、教員からの評価が高い。前回の研究プロジェクト（「大学の地域連携事業を活用した教員研修システムの構築」）に参加した教員の多くからも、本学の「自主セミナー」が教員の主体的な研修に大きく貢献していることを高く評価されている。</p> <p>本プロジェクトでは、こうした「自主セミナー」の取組を教職員間に広く周知するとともに、全国を対象としたハイブリッド型セミナーを実施することで、上越市近隣の教員に加え、全国の教員の教科指導力の向上に寄与することを目的とした。</p> <p>講師には、元筑波大学附属小学校教員であり、現在は桃山学院教育大学教授である二瓶弘行氏を招聘し、国語科における文学的文章を対象とした「自力読み」セミナーを運営した。これにより、全国の教員の国語授業力の向上を図るとともに、本学における教員研修システムへの適用可能性および実効性について検証した。</p>
研究成果の概要	<p>1. 自主セミナー「みんなの『自力読み』セミナー」の発展的継続</p> <p>前回のプロジェクトでは、最終的な試みとして、令和6年3月に若手教員の教科指導力の向上を目的とした研修会「みんなの『自力読み』セミナー」を開催した。全国の教員を対象として国語科指導への意欲と技術の向上を図るとともに、ハイブリッド型セミナーの運営方法を実地に学ぶことができた。本プロジェクトにおいても、以下の4回のセミナーを実施し、研修内容および運営方法の検討を行った。</p> <p>(1) 令和6年8月4日（日）第2回みんなの「自力読み」セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場 明治図書出版本社会議室 ハイブリッド型セミナー 参加人数 168名</li> <li>・内容 ①「スワンレイクのほとり」で（光村図書4年）の教材研究 &lt;藤原&gt;</li> <li>②「さなぎたちの教室」（東京書籍6年）の教材研究 &lt;宍戸&gt;</li> <li>③「ぼくのブック・ウーマン」（光村図書6年）の教材研究 &lt;谷内&gt;</li> <li>④「大造じいさんとがん」（3社5年）の授業づくり &lt;二瓶&gt;</li> </ul> <p>(2) 令和7年2月24日（月）第3回みんなの「自力読み」セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場 明治図書出版本社会議室 ハイブリッド型セミナー 参加人数 96名</li> <li>・内容 ①「銀色の裏地」（光村図書5年）の教材研究 &lt;藤原&gt;</li> <li>②「おにぎり石の伝説」（東京書籍5年）の教材研究 &lt;宍戸&gt;</li> <li>③「春風をたどって」（光村図書3年）の教材研究 &lt;谷内&gt;</li> <li>④「一つの花」（3社4年）の授業づくり &lt;二瓶&gt;</li> </ul> <p>(3) 令和7年7月30日（水）第4回みんなの「自力読み」セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場 江戸川学園取手小学校 ハイブリッド型セミナー 参加人数 183人</li> <li>・内容 ①ワークショップ「2学期からできる『自力読み』の言語活動」 &lt;布富&gt;</li> <li>②公開授業「大造じいさんとガン」（5年生） &lt;藤原&gt;</li> <li>③協議会「『自力読み』は機能していたか」 &lt;山本・宍戸・谷内&gt;</li> <li>④講演「夢の国語教室を創るために」 &lt;二瓶&gt;</li> </ul>

#### (4) 令和8年3月1日(日)第5回みんなの「自力読み」セミナー

- ・会場 明治図書出版本社会議室 ハイブリッド型セミナー 参加人数 103名
- ・内容 ①トーク「授業の疑問や悩みを語ろう」 <山本・大越・布富・松川>
- ②オープニング「自力読みの魅力」 <谷内>
- ③「スイミー」の教材分析と授業づくり <藤原>
- ④「海のいのち」の教材分析と授業づくり <宍戸>
- ⑤「やまなし」の授業づくり <二瓶>

4回のセミナーを通して、国語科の文学教材を中心に、二瓶弘行氏の提唱する「自力読み」を理論的基盤とした教材研究および授業づくりを継続的に検討・共有することができた。本学の「自主セミナー」では参加費を徴収する形式のセミナーを登録できないため、成果を直接反映させることには制約があるものの、教員の授業力向上を目的としたセミナーを自主的に運営する際の留意点を具体的に学ぶことができた。

対面参加は東京周辺の教員が中心であったが、オンラインでは全国からの参加があった。特に参加者が多かったのは、江戸川学園取手小学校(茨城県)で実施した第4回セミナーである。その要因として、「小学校国語 物語文の『自力読み』大全」の販売と連動した企画であったこと、夏季休業中の平日に開催したこと、さらに文部科学省および茨城県教育委員会の後援を受けた公的研修として参加しやすい条件が整っていたことが挙げられる。また、近年の教員には「土日は休みたい」「研修費や交通費は抑えたい」といったニーズがあることも示唆された。

アンケートでは、「講師と参加者が意見を交わせる双方向的な場面を増やしてほしい」という意見が見られた。そのため、各セクションに模擬授業的な場面を取り入れたり、グループ対話を導入したりする工夫を行った。オンライン参加者にはチャット機能を活用して意見や感想を共有してもらい、それらを適宜取り上げることで参加意識の向上を図った。

さらに、オンライン参加者の視聴環境の向上を図るため、高品質なICT機器を導入した。中心となるパソコンには、音声・映像の安定性に優れたApple社のMacBook Airを使用した。また、十分な採光が得られない環境に対応するため、カメラ(Insta360 Link 2)を導入した。このカメラは暗所でも明るい映像を確保できるだけでなく、人物の動きに応じて自動追尾する機能を備えており、映像品質の向上に寄与した。さらに、オンデマンド配信用としてvlogカメラ(Osmo Pocket 3)を活用し、鮮明で視認性の高い動画を作成することができた。

オープニングやクロージングでは、上越教育大学の「自主セミナー」が地域の教員の資質向上に寄与していることを紹介し、質の高い研修への継続的な参加が授業力・実践力の向上につながることを発信した。

#### 2 汎用的読解活動プログラムの継続的開発

前回のプロジェクトでは、児童生徒の読解力向上に有効な方法として、以下の2つの手立てを明らかにした。本プロジェクトでは、これらを「汎用的読解活動プログラム」と位置付け、多くの学校・学級で実践し、その有効性を検証した。

【手立て①】汎用的読解活動(場面、人物、あらすじ、変容、主題)の反復

【手立て②】自分の読みを1枚にまとめる「読みレコ」の作成

埼玉県富士見市立みずほ台小学校の小森唯教諭は、4年生の「一つの花」において、手立て①と②を実践した。ワークシートに、各読解活動で得た自分の読みを書き込む欄をあらかじめ設け、それぞれが順に記入していく方法を採用した。

糸魚川市立能生中学校の八木ゆかり教諭は、「読みレコ」に関わる数年間の取組を通して、「あらすじ」や「感想」を書くことが難しい生徒が増えていることに課題意識をもち、文章力の向上を目指した指導の工夫を重ねていた。さらに、「読みレコ」と「ZINE」という取組を関連付けた実践を行い、生徒の主体性や表現力の向上を図っていた。ZINE

	<p>とは、個人が自由なテーマで制作する小冊子のことであり、大手商業出版にはない個性的な表現が可能で、全国各地でイベントや専門ショップも展開されている。八木教諭は、「読みレコ」を小冊子のように構成し、互いの ZINE を見せ合う活動を取り入れることで、新たな気づきが生まれるよう工夫していた。</p> <p>糸魚川市立南能生小学校では、令和 6・7 年度の校内研修のテーマを「読み取ったことを自分らしく表現する子の育成」とし、手立て①②を研究の柱として全校で取り組んだ。その成果として、第一に児童の国語力の向上が挙げられる。学力検査における国語の偏差値は 1 ポイント上昇し 55.5 となり、特に 2・3・6 年では 3 ポイント以上の向上が見られた。これは、汎用的読解活動を複数の教材で継続的に行ったことにより、場面分けや要約、人物理解、主題把握といった力が向上したためと考えられる。</p> <p>第二に、全校で読解活動の方法を共有できた点である。5 月の「全校国語」において学習方法の共通理解を図り、さらに全教員が学期ごとに研究授業を実施したことで、研究の深化と指導力の向上が短期間で進んだ。第三に、教師の教材分析力の向上である。授業前に教師自身が「読みレコ」を作成する取組により、単元の見通しをもった指導が可能となり、児童の実態に応じた授業改善が促進された。</p> <p>また、糸魚川市の小中学校教員が教科・領域ごとに分かれて研修を行う「令和 7 年度糸魚川市教育研究会国語部研修会」においては、令和 7 年 11 月 11 日、南能生小学校の谷内卓生校長による全校国語（1～6 年生 18 名による合同授業）の公開授業が行われた。本授業は、教育出版 2 年の教材「きつねのおきやくさま」を用いた物語の授業である。導入では、縦割り班 3 グループが物語の構造を捉える「物語パズル」に取り組んでいた。続いて、本時のねらいである「この物語で大きく変わったことは何か」について全校 18 名で意見交流を行い、終末では全員が作品のメッセージ（主題）を創作していた。本授業は、汎用的読解活動を活用した読みの力の向上と、「自分らしさ」の追究という二つのテーマを同時に実現する授業スタイルを、具体的かつ分かりやすく示すものであった。</p>
<p>研究成果の発表状況 (※今後の予定も含む。)</p>	<p>プロジェクト終了から 2 年（2026. 4～2028. 3）の間に、国語指導に関わる書籍を出版する。2026 年 8 月に明治図書出版より「定番教材、新教材で見る 小学校国語 物語の『自力読み』の授業デザイン」（仮）を出版する予定。また、2027 年 2 月に発行予定の『上越教育大学国語研究』41 号（上越教育大学国語教育学会）への論文投稿を予定している。本研修システムの内容を柱にして、研究プロジェクトの成果をまとめる。</p>
<p>学校現場や授業への研究成果の還元について</p>	<p>国語教育のアスロテラス会のセミナー活動を継続し、「みんなの『自力読み』セミナー」を年 2 回継続して実施する。上越地区の国語実践交流を高め、その中で本プロジェクトの成果を紹介していく。</p>